

## 正しさからの回心

クラレチアン宣教会司祭 梅崎 隆一

インターネットの世界に炎上というのがあります。悪人とされる人に向って容赦のない書き込みがなされます。インターネットが人を変えたわけではなく、インターネットがない時代にも同じことはありました。犯罪者の家族に読むに堪えない内容の手紙が送りつけられ、家の人たちが引っ越し、空地になっても手紙が執拗に送りつづけられました。自分の正しさを信じて疑わない人は時として凶暴になり人間性を失います。

1971年に心理学者がある実験を行いました。一般人21人を看守役11人、囚人10人に分け、刑務所に似せた施設で生活させました。彼らは役割に合わせて行動し始めます。やがて看守役は囚人役に対し、度を超える暴力を行い緊迫した状態に陥ったため、2週間の予定でしたが6日で中止になりました（仲正昌樹著「100分で名著 ハンナ・アーレント 全体主義の起源」NHK出版、2017年、103頁）。

在日朝鮮人に対するヘイトスピーチには沢山の一般人が参加しました。根っこは同じなのではないかと思えます。聖書に登場するファリサイ人も善良で信仰深く、貧しさに耐えた人、ローマが支配している社会に妥協してはいけなかったと考えていました。そして正しさを実現するためにイエスを十字架に追い込んだのです。

自分の正しさを信じるが故に残虐になるのは、考えないことが原因だと言われています。悪人や罪人は排除すべきだと考えてそれ以上は考えません。

しかし「自分も悪に染まる可能性がある」、「悪に染まった人も人間だ」と考えるなら、私たちの行動も変わります。オウム真理教のドキュメント映画を製作した森達也監督はオウムの人たちと関わることによって、私たちとは何も違わない人たちであり、優しくて善良な人たちであることが分かったと言われます（森達也著『神様ってなに？』河出書房新社、2009年、16頁）。

回心は見方を変えるという意味を持っています。私たちの信じている正しさが神の求めているものと同じであるかどうかを吟味するとき、私たちの生き方は変えられます。